

会 議 録

| | |
|---------------|---|
| 会議名 | 令和4年度山陽小野田市かるた振興委員会（第1回） |
| 開催日時 | 令和4年11月1日（火） 18時～19時10分 |
| 開催場所 | 市役所3階 第2委員会室 |
| 出席委員 (11名) | 松永 進、時吉 陽子、白石 江里、平原 廉清、高崎 淳子、 今村 美智子、久保 久美子、間恵 満貴、山本 敦士、天尾 昇 一、坂井 久美子 |
| 欠席委員 (1名) | 師井 節子 |
| 傍聴者 | なし |
| 担当課及び 出席者 | 市民部：川崎部長 文化スポーツ推進課：石田課長、別府 |
| 会議次第 | 1 あいさつ 2 出席者自己紹介 3 議事 （1）委員長及び副委員長の選任について （2）かるた振興に関する今年度の取組みについて （3）かるた振興に関する来年度の取組みについて 4 その他 （1）次回の開催予定について |
| 会議結果 | 3 議事 （1）委員長及び副委員長の選任について 委員長に松永委員、副委員長に平原委員が就任。 |
| 委員長 | （2）かるた振興に関する今年度の取組みについて 資料1に沿って事務局が説明 |
| 委員長 | 知り合いから、市役所に横断幕が設置してあったと言われ、市民の中でも話題にのぼっているということが感じられる嬉しい出来事であった。 |
| 委員 | 幼児かるた教室の件だが、以前から年長クラスに教えたいという気持ちがあった。理由は、秋田のねんりんピックに行った際、保育園のかるたをやっている園児達が、ねんりんピックの優勝選手に紙で作成した金メダルを渡してくれた。その後、園児の様子を聞くために園に連絡を取ると、入園時には全く札を覚えていない園児達が、卒園時には20人中14人が100枚 |

| | |
|-----|---|
| | <p>全ての札を覚えて卒園していくというのを聞いた。山陽小野田市ではせつかく小・中・高・大と縦の流れができており、そこに園児が入る。園児は親が関わらないとできない。親が関わると自然と祖父母に波及して、多くの人に関わってくるのではないか。まだまだかるたに関わる人は人数的には少ないが、以前から希望があり、こういうふうの実現できるのを嬉しく思う。</p> |
| 委員 | <p>本校がかるた中心に活動を行っているという状況を見て、子ども達が朝から百人一首を朗読し、いい雰囲気の中で、学校生活をスタートさせていると思っている。小学校から高校まで連携できているが、中学生1年生の子が高校生に負けずに札を取っている姿や、小学6年生の子が中学生に負けずに取っている姿を見て、「どうしてこんなに覚えているの？」と子ども達に聞くと、「小学校からやっています。」と自然に答える。幼少期からかるたに触れているというのは子ども達には当たり前で、かるたが馴染んでいるというのを感じた。それもあり、高校生への憧れを持ちながら、今年行ったような交流会ができています。山陽小野田の文化に触れるのは非常に意味深いと感じている。今年小野田高校のかるた部もたくさんいて、その中に竜王中から入った子もいた。ぜひこれが続いていくようお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <p>今年3年目となった小中高の交流会に見学に行ったが、今回特に子ども達が楽しそうだったのを感じた。終了後に校長先生とも話したが、中学生が高校生に勝てたりするのが面白い。それは小さい頃からかるたを習って覚えているというのが大きい。取組を進めて行くごとに、年を追うごとにかるた人口が増えているのを実感した。幼児かるたを始めると、さらに地域に根付いていくのだろうととても嬉しく思う。</p> |
| 委員 | <p>いつも市を挙げて応援していただき感謝している。幼少期から始まって小・中・高・大学と繋がる形でかるたが根付いていくというのはとても良いことだと思う。10月12日の交流会を見て感じたことは、生徒達がかるたを通して小・中学生に指導している姿は学校では見られない。こういうことを通して人間的な成長をしていくのを実感した。生徒達もいろいろな形で役に立ちたいという気持ちを持っているため、引き続き貢献できたらと思っている。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>今年3年目のかるた交流会だが、1回目は皆緊張していて、2回目はよくなったと思ったが、3回目は事務局が言われたように、さらに笑顔で交流ができていた。かるたが子ども達にとって身近なもの、大切なものになっている。先日、山口県校長会があり、山陽小野田市が「社会との連携」というテーマで研究・発表した中で、小・中学校の連携などが、かるたというツールを通じてより強化しているというのをアピールした。また、小学校長会で年2回会報を作成するが、「この人、この歩み」のコーナーでかるたの久保永世クイーンに取材し、山口県内の校長先生に配付した。山陽小野田市とかるたが全県的に有名になっていると思うので、今後ますますかるたに関する取組が盛んになることを期待している。</p> |
| 委員 | <p>小・中・高と交流会等で連携されており、大学も参加したいと思っているが、平日の設定だと講義と重なり難しい。土曜などで日程調整してもらえると大学も参加できる交流会になる。調整が大変と思うが、検討をお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>ひたすら感心している。素晴らしい取組と思っている。</p> |
| 委員 | <p>かるたに親しむところから始まり、競技者も育つようになると良い。各学校に行った際に、市から配付した札を細工させてもらったことがあるが、学校の先生は100枚の札を崩すという発想がない。五色に分けられる札を配付しているため、色ごとにばらして分類してもらおうと、使い道が広がりクラス全体で使用することができるため、そのような活用をお願いしたい。また、先ほど校長先生が言われた会報だが、「我がまち文化を世界へ」という壮大な題名を考えていただいたが、Instagramでは海外の生徒が自分達で百人一首を読んで、ライブ動画を様々な国の人々が配信しているので機会があれば見ていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>今月3回ほど学校かるた出前教室を控えているので、気合いをいれているところである。7月のかるた教室や、竜王中学校での交流会などがニュースで流れると、まわりからその話題で声をかけられる事が増えてきた。かるたをやっていない人から興味を持ってもらえるのは、普及に繋がっていると感じている。今後も頑張っていきたい。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | 娘がかるたを始めたのをきっかけに親子でかるたを始めたが、受験時から娘がかるたを休止し、コロナ禍になり、再度受験が始まり、しばらく休止期間が続いている。また娘が始めてくれるまで自分は続けて頑張ろうと思う。 |
| 委員長 | <p>(3) 今後のかるた振興に関する取組みについて</p> <p>資料2に沿って事務局が説明。</p> |
| 委員 | <p>幼児かるた教室は、子ども達に6枚だけを持たせて、上・中・下段の意識をしっかりと覚えて始めるということ考えているが、それに応えてくれる保育園があるかどうか懸念事項である。幼児かるた教室は年3回を予定しているが、高千帆小学校の正課クラブでかるた部を指導に行っていて、1回目より2回目、2回目より3回目というように上達している。やはり回数が大切という実感があるため、回数を増やしていきたい。幼児かるた教室にこだわるのは、少子化になってきているため、小学校に入学したり、習い事を始める前に、かるたというものがあると気づいてもらえれば、方向性が変わってくるかもしれないという思いがある。かるたは長期間休んでも、再開すればいつでも楽しめる競技である。</p> |
| 委員 | <p>来年度の取組は、これまでの取組を継続していくような感じだが、新鮮なアイデアがあればお願いしたい。</p> |
| 委員長 | <p>理科大の学園祭などを取り入れて、今後の事業に組み込まれると、市民に溶け込んでいくのではないかと思う。</p> |
| 委員 | <p>今年度「大学開放デー」の中で競技かるたの体験会のコーナーを設けた。来年度も予算次第であるが、同じように市民向けに様々な体験コーナーを設ける中で、かるたの振興をするコーナーを設けられたら良いと考えている。かるた冊子の内容については、今後協議されると思うが、この中にコラムというか人の紹介を設けて、かるたに携わった経緯等を記載すれば、より身近になるのではないか。</p> |
| 委員 | <p>かるた小冊子の取組だが、地元の教材は教科書に匹敵するくらいの教材になると思うので、かるた教室参加者に限らず、できればたくさん配布していただきたい。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 予算獲得に向けて努力したい。 |
| 委員 | 学校かるた出前授業は4年生でやるというふうに固定してはどうか。須恵小学校では、4年生でかるた出前教室があるというのが浸透しており、嬉しく思った。 |
| 事務局 | <p>学校に希望調査を行う際に、4年生を対象にお願いしているが、それ以外の学年でも受付けている状態である。委員の言われるように、4年生で必ずやるということが学校の方でお願いできれば、前向きに検討していく。</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 次回の開催予定について</p> <p>次回の会議は3月を予定している。時期が近づいたら日程調整をするので、委員のみなさんの御出席をお願いしたい。</p> <p>【会議終了】</p> |